

ニッポン、きものも負けちゃいけない!

ベトナム・アオザイフェスティバル2025で見た 民族衣装へのアイデンティティ

ちょっとレポートが遅れてしまいましたが、今年3月、ベトナム・ホーチミン市で開催された「ベトナム・アオザイフェスティバル2025」取材してきました。

「アオザイ便り」
ベトナムから

「アオザイ・ベトナムの誇り高き伝統」がテーマ、ベトナム第2の1千万都市ホーチミン市を代表するイベントになっています。ホーチミン市のメインストリートをいっぱいに使ってのびっくりするほど、大規模なもの。日本で例えると銀座中央通りがきもので埋め尽くされる感じでしょうか?札幌の大通公園の雪まつりに規模感としては近いかもしれません。



〈スクープ写真〉
アオザイを着て、出っ張ったお腹を自慢?するお茶目な武部勤さん
(日本ベトナム友好議員連盟特別顧問・元自由民主党幹事長・元衆議院議員)



「きものを世界遺産(無形文化遺産)にするためのロードマップ(道すじ)」をAIと一緒に考えてみました。

まず、AIがあげた成功のカギは

- 国内での団体横断的な連携
- 若手人材の育成と確保
- 国際的な発信力(海外展開)
- 国民的支持(和装の普及活動)

いかがでしょうか? 世界遺産のためだけでなく、きものを流行らせるために必要なことと共通していると思われませんか?

KIMONO
ROAD TO UNESCO
Intangible Cultural Heritage

きもの、
世界遺産への道
その3

AIが提案する
「世界遺産へのロードマップ」

第1段階

基盤整備

〈現状調査〉着物の生産地・職人・流通・着付け人口を調査し、統計データを整備。
〈団体間の連携〉呉服業界、織元、仕立て職人、着付け協会などが参加する「和装文化継承協議会(仮称)」を設立。
〈文化的意義の整理〉着物の歴史・技術・社会的役割を学術的にまとめ、文化庁と共有。

第2段階

継承活動の強化

〈後継者育成プログラム開始〉織り・染め・仕立て・着付けの研修制度を整備。若手支援のための奨学金やアーティスト・イン・レジデンス制度を導入。
〈国内啓発〉「全国一斉和装の日」「学校での着物授業」など、国民参加型イベントを展開。
〈記録・アーカイブ作成〉職人の技術を映像・出版物として体系的に記録。

第3段階

国際発信

〈海外展示・発信〉パリやニューヨークなどで「KIMONO展」を開催。海外の映画やアートイベントとのコラボレーションを推進。
〈国際学会・シンポジウム〉着物をテーマにした国際会議を日本で開催。
〈無形文化遺産候補への布石〉文化庁が「着物」をユネスコ候補として検討開始。

第4段階

国内合意形成と申請準備

〈国民的支持の醸成〉NHK特集、全国キャンペーンなどを展開し「着物=日本の文化財」という意識を浸透。
〈保護計画の具体化〉「担い手育成」「地域ごとの伝統維持」「普及活動」などを盛り込んだユネスコ申請用の保護計画を策定。
〈国内推薦の獲得〉文化庁 → 日本ユネスコ国内委員会 → 政府承認へ。

第5段階

ユネスコ申請と審査

〈ユネスコへの正式申請〉日本政府からユネスコ事務局へ「着物」登録を申請。
〈国際審査対応〉専門家審査・補足資料提出などに対応。
〈登録実現〉「着物」が無形文化遺産として世界に認定される。